

平成 30 年 1 月 吉日

和風会会員各位

和風会講演会のご案内

謹啓

新春の候、先生方におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
さて、和風会講演会を下記の日程により開催することとなりましたので、ご案内申し上げます。
先生方には時節柄ご多忙のこととは存じますが、万障お繰り合わせのうえ多数のご参加を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

尚、ご出席の先生方には大阪府医師会生涯研修システムの 2 単位が認定されます。
また、お車でご来場の際には千里阪急ホテル駐車場をご利用下さいますようお願いいたします。

謹白

記

日 時：平成 **30** 年 **2** 月 **9** 日（金）**18:15** より

場 所：千里阪急ホテル 2F「樹林の間」

<プログラム>

話題提供（18:15 ～）

「抗てんかん薬フィコンパの有用性と位置づけ」 エーザイ株式会社

特別講演（18:30 ～）

座長：高知大学医学部 神経精神科学教室 教授 數井 裕光 先生

「脳からみたところ」

講師：大阪大学大学院連合小児発達学研究科 行動神経学・神経精神医学寄附講座

教授 森 悦朗 先生

尚、会終了後、立食による情報交換の場をご準備いたしております。

共催：大阪大学精神医学教室和風会
エーザイ株式会社

抄録

「脳からみたところ」

大阪大学大学院連合小児発達学研究科 行動神経学・神経精神医学寄附講座
教授 森 悦朗 先生

和風会に加えていただくことになったので、私自身の紹介を兼ねて、脳とところの関係についての私の思いをお話したいと思います。神経内科医が、脳損傷によって生じる精神症状や行動の問題に関心を抱き、運動感覚障害と同じように、それを診療するというは当たり前なことだと考えています。他の多くの神経内科医とは違って、私はむしろ前者のほうに惹かれていました。最初は神経心理学、すなわち脳損傷による欠損を対象としていましたが、次第に陽性症状に関心を持つようになり、今では行動神経学というより包括的な範疇で活動しています。阪神淡路大震災の体験をおぼえている健忘の強いアルツハイマー病患者を経験したことから着想を得て、情動が記憶に及ぼす影響の研究を行いました。欺瞞に関する神経科学的研究から、パーキンソン病の患者が正直だという性格傾向の脳内機序、さらに解離性健忘の脳内機序の研究に進めました。レビー小体型認知症における視覚認知障害の研究から、幻視に関する研究へと進めました。これらの研究の結果は陰性症状（欠損）と陽性症状の関係性を考える上で示唆に富んでいるのではないかと考えています。

■ 千里阪急ホテル アクセス ■

